

七九

大正十四年九月二十二日

山官房庶務課長

内務省警保局長取

菊御紋章の関する調査 一部

右當部^者於テ編纂致候ニ付御參考ニテ
及迄前候

大正十四年九月

菊御紋章に関する調査

宮内大臣官房庶務課

第一 菊御紋章ノ沿革
第二 御紋章通論

第一章 御紋章一般

第一節 明治元年以後同十六年迄ノ禁令、布告、指令

第二節 明治十六年治定御紋章許否内規

第三節 御紋章ニ關スル重要回答沿革

第二章 皇族御紋章

第一節 親王家ノ菊章

第二節 皇族家紋

第三節 皇族御紋御寄附

第三章 官衙附軍艦

第一節 内務省關係

第二節 海軍省關係

第三節 外務省關係

第四節 大藏省關係

第五節 文部省關係

第六節 農林省、商工省關係

第七節 陸軍省關係

第八節 遞信省關係

第一 菊御紋章の沿革

第九節 拓殖局關係

第十節 其他

第四章 社 寺

第五章 賞狀賞牌附賞盃

第六章 免狀及切手印紙ノ類

第七章 賣品附商標看板引札ノ類

第八章 圖書書籍附獻品

第三 現行菊御紋章許可範圍

第四 參考資料

第一章 内務省往復公文

第二章 菊御紋章ニ關スル達類聚

第三章 官報(雜報)ニ所載ノ菊御紋章取締

第四章 御肖像取締ニ關スル件

菊御紋章ノ沿革

皇室御紋章トシテ菊ハ「十六菊」及ビ「八重十六菊」桐ハ「五七
 桐」ト定メラレタリ 今其ノ由来ヲ稽フルニ諸説多クシテ何レニ從ク
 ヘクモアラサトモ最モ信ヲ置ク者モトシテハ鎌倉時代ヨリ用ヒ来リ
 シ御袍ノ織紋ヨリ出テタルトイフ説ニシテ主上ハ桐、上皇ハ菊、
 諸公卿ニハ木瓜、橘、杏葉、花菱等ハレクノ織紋ヲ定メテ
 各自徽號トシタルモノナラントイフ 後鳥羽院曾テ諸國ノ
 鍛冶ノ院中ニ召シテ御手ツカラノ劔ヲ鍛ヘ給ヒシカ其ノ刀
 ノ茎ニ十六葉ノ菊花ヲ銘ニ打タセ給ヒタルコト古ノ銘盡大
 全ニ見エラ之ヲ菊ノ御作ト稱シタリトイフ 而シテ菊ハ桐ヨリ後
 ニ出来タルモノニシテ足利時代以後ニ至リテハ禁中ニハ仙洞モ同
 シク菊ノ御紋ヲ用テ給ヒテ却テ桐ヨリモ重クシタマヘリ 南未皇
 室ニ對スルハ臣等ニ對シテ特ニ桐菊ノ御紋ヲ許シ給ヒシヨ

第二 御紋章通論

リ漸ク公許ヲ得サル者、私リニ菊桐、御紋ヲ附クルモ、多クナリ
シヲ以テ後陽成天皇文祿四年豊臣家五大老タリシ徳川
家康、浮田秀象等、連署ヲ以テ違セラレタル法度書ノ文ニ
「衣裳之紋、御赦免之外菊桐不可付之於御服拜領
者、其服所持之間者、可着之、染替別之衣裳御紋不
可候事」ト制セラレタリ 徳川時代以後ハ此ノ制度甚々
弛シ御紋ノ濫用益々甚タレクナリテ市井ノ民ニ至ル迄商
標ノ如クニセシモノアリキ 依テ明治以後ハ之ヲ嚴重ニ取締
リ以テ今日ニ及ヘリ

第一章

御紋章一般

第一節

明治元年以後十六年迄御紋章禁令
二 明治元年布告及指令回答

一 明治元年三月二十八日布告

第一九五号

提灯又ハ陶器其外賣物等ハ御紋ヲ畫キ候事
共如何儀ニ候以來右ノ類御紋ヲ私ニ附ケ候
事此度可禁止旨被 仰出候事

但ニ御用ニ付是迄被免之分一應伺出可
申事

右ノ通被 仰出候條末々迄不洩様可申達事

(備考) 本布告ハ尚現在ニ於テ使用ス

○明治三年二月二十八日達

從來宮堂上ヨリ諸國寺院ノ菊御紋附品寄附禁止

一明治二年八月二十五日布告

社寺ニテ是迄菊御紋用ヒ来ル者不少候處
今般御改正相成社者伊勢八幡上下賀茂等
寺ハ泉涌寺般舟院等外ハ一切被差止候
旨被仰出候事

但格別由緒有之社寺ハ由緒書ヲ以テ可伺
出候事

○明治三年三月十七日布告

親王家ニ用未候菊紋葉替又ハ裏表等品ヲ替へ御紋ニ不紛
様可致旨先般御沙汰之通ニ候條右紋附品ニ社寺ハ致寄
附候儀堅禁止被仰出候事

一明治四年六月十七日

皇族家紋雛形ノ通被定候事

第二章 皇族紋章參照 十四條一重裏菊

一同日布告

第二〇八五號

菊御紋禁止ノ儀ハ第ニ御布告有之候處猶又
向後由緒有無ニ不關皇族外總テ被禁候
尤御紋ニ紛敷品相用候儀ニ同様不相成候
條相改可申事

但從來諸社ノ社頭ニ於テ持来候分ハ地方官ニ於テ
取調可申出候事

一明治七年四月二日達

社寺ニテ菊御紋相用候儀禁止ノ旨明治
二年己巳八月布告候處自今官幣社々
殿ノ裝飾及社頭之幕提燈ニ限リ菊御紋
相用不苦候條此旨管内官幣社々可相
達事

一明治十二年四月二十二日達

社寺ニテ菊御紋相用候儀ニ付明治二年ハ
布告ノ趣モ有之候處自今國幣社々殿ノ裝
飾 以下同前

一明治十二年五月二十二日達 第二三三號

一般社寺ニ於テ菊御紋相用候儀不相成旨

明治二年八月布告ノ趣ニ候處右布告前神
殿佛堂ニ裝飾シタル分ニ限リ其儘存置苦
シカラス候此旨相達候事

○明治十二年九月一日

海軍省同兵學校卒業者免狀用紙ニ菊御紋流透用届

一明治十三年四月五日 宮内省達乙第二號

菊御紋章ヲ賣物等ニ畫キ候儀註紛敷品相用
候儀不相成旨明治元年三月二十八日明治四年
六月十七日太政官布告ノ趣ニ有之候處近來
往々賣品ニ御紋章ヲ畫キ候向有之哉ニ付取締
方一層注意可致候此段相達候事

○明治十三年四月十五日司法省伺 右ニ関スル禁令前ノ創製作ニ係リ現在其用ニ供スルニ非ルモハ不問ニ指ク義同届

○明治十三年五月十四日内務省伺 皇統或ハ御歴代ノ尊号ヲ掲候圖書中ハ菊御紋ヲ記スルハ右布告ニ準セス

○明治十四年九月十六日大政大臣伺ニ對スル御指令、御陵園、御系譜又ハ寫真模圖書菊御紋ハ禁令ノ限ニテラス

○明治十五年一月廿一日大政大臣再伺 新聞紙廣告欄内、物品封皮等禁令ノ限ニテラス
右ノ理由トスル所ハ「常譽ヲ表スル賞牌ヲ模字掲載シ、賞状ニ用テ、又ハ引札廣告、物品封皮ニ用フルカ如キハ其常譽ヲ廣ク江湖ニ披露スルモノニシテ他ノ私ニ菊御紋ヲ用フル者ト同視スヘキモノト見テハ敢テ不都合ナキモノト見テ

○明治十六年六月十五日内閣へ回答、製衣會共進會褒賞券ハ菊桐御紋章相附不詮議

○明治十六年六月十四日宮内省ヨリ各府縣へ内達、其管内限り頒行スル賞品賞状ハ各種印紙免許鑑札其他賞状切手等へ御紋章ヲ

付シ候節ハ其時ニ當有へ伺出テ

○福島縣下郡役所破風下ハ菊御紋章相附度件右不許可

○農商務省ニ許可シタル左記印刷物へ御紋章許可

一、水先 免狀 逓信省、移管 イキ

一、水先 船免狀 但し海技免狀ノ中甲種ニ限リ

一、外國郵便船減價乗組切手 逓信省、移管 イキ

一、郵便切手 (華書) 現在ナシ

一、内閣勸業博覽會褒賞狀

一、府縣聯合共進會褒賞授与証 イキ

一、内閣繪畫共進會賞狀 ナシ

一、同賞狀用ハ札 ナシ

一、水産博覽會褒賞狀 ナシ

右太政官へ伺済調製分

一、海員免狀規則 ナシ

一、水先規則 ナシ

一、船免狀 今船舶國籍証書トナル
現在使用

一、米商會所開業免狀用紙 ナレ

一、外國通信用封筒 但此封筒ハ大政官同済ニ係ル外國郵便
減價案組ヲ適用シタルモノ
イキ

一、米麦外三品山林共進會褒賞授与證 現在ナレ

一、同賞狀用札 ナレ

一、共進會褒賞証狀 ナレ

一、綿糖共進會褒賞証狀 ナレ

右ハ曾テ橫濱大阪ニ於テ各會開設ノ節内務大臣西有限
協議、上調製レタルモノニシテ當者ヘ引継、分

第二節 明治十六年治定御紋章許否内規

一、菊御紋章附看方許否内規 明治十六年六月二十六日

一、政府ノ命ヲ以テ開設スル博覽會共進會等、賞狀

一、諸官者ニ於テ管掌スル博覽會共進會等、賞狀

一、政府ノ命令ヲ以テ全國一般發行スル各種印紙免
許證札其他證狀切手、類

一、官立學校免狀

右四項ノ件菊御紋章附スルヲ許ス

一、府縣限リ開設スル博覽會共進會等、賞狀

一、府縣限リ發行スル各種印紙免許證札其他證狀
切手、類

一、公立以下ノ諸學校免狀

右三項、件菊御紋章附スルヲ許サズ
一、桐御紋章ハ禁令限外ニ付テハ府縣廳又ハ人民
ヨリ用方伺出ルコトアルハ禁令ノ限ニ非ルヒ自ラ指合
スルコト、ス

第三節 御紋章ニ関スル重要回答枚萃

- 明治十六年六月外務省伺外国人備入ニ付選枚方盡カレ者ハ
報酬トシテ銅貨瓶ハ菊章ヲ付シ贈与ノ件彙纂及旨回答
- 明治十七年十月二十一日内務省ハ回答
自今菊御紋章ノ義本者ニ於テ主官ノコト
- 明治十七年十月 岡山縣伺 郡役所ハ菊御紋章掲載ノ義不許
可

- 明治二十二年七月十日 日本競馬會馬見所ハ御紋章附者
不許可
- 明治二十三年十月三日 菊及菊花章由未問合ニ付回答
- 明治二十六年三月三十日 御紋散御張調製見合方博物館ハ回答
佐賀縣多久徳一即定紋ノ件菊花ニ終ハレキヲ以テ不許
- 明治四十一年八月十八日 學習院校舍正堂ノ上壇後壁ヲキーストシ
ニ菊御紋章附者許可
- 明治三十四年奈良縣廳玄関ニ使用ノ御紋附幕許可
- 明治三十四年十二月菊御紋章取締回例警保局長ヨリ通牒
- 明治三十五年第五回内國勸業博覽會場正門入口大アーチノ上ハ菊御紋章
附者許可

第二章 皇族御紋章

第一節 親王家、菊章

明治二年八月二十五日太政官布告
第八〇二号

親王家ニテ菊御紋用未候處向後十六葉之分ハ
不相成十四五以下或ハ裏菊等品ヲ替へ御紋ニ
不紛様可致旨被 仰出候事

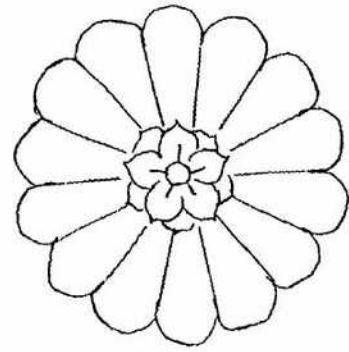
第二節 皇族家紋

明治四年六月十七日

太政官布告第二八六号

皇族家紋雛形、通被 定候事

第四一重裏第



285

第三節 皇族御紋御寄附

一、向神社へ久通宮御紋御寄附、件
右、神輿、額面へ神号、御染筆並右神輿へ皇族御徽
章裏菊、御紋御寄附、件氏子より久通宮家へ願出、処揮
毫、差支ナキ、御紋章、神輿へ附候儀、不相成

但、御揮毫、額面へ御紋章、附候儀、不苦候事

久通宮祠下賜不皿へ皇族御紋附看、件

久通宮祭主御奉職及保勝會等之會長御承諾、關係

上神官並、會員等、功勞者へ御紋附御盃下賜、其差

支

第四節 其他

皇族御旅館へ御紋章附蓋、幕使用不相成、旨日本

赤十字社へ回、旨

明治三十三年六月

第三章 官衙附軍艦

第一節 内務省關係

一 諸藩廳並藩邸飛地出張所等門玄關自今御紋之幕
提燈相用可申事

明治三年十月十日

太政官第六八二号

一 府縣廳並飛地出張所等玄關御紋、幕提燈ヲ用
可申事

明治三年十月十四日

太政官六六七號

一 郡役所破風、菊章附看、儀不許可
一 府縣警署着屋上、菊御紋表出、儀不許可

古、明治十年一月十九日新澤縣令、リ内務卿、伺出、内務卿、太政
大臣、伺出、上、以定

一 医術開業免状へ菊御紋章附番儀差支ニ旨回答

明治十六年十一月二十九日

一 日本藥局方外國通用ノタメ表紙中央へ菊御紋章

印記ノ儀差支ニ旨回答

明治十九年七月三十日

一 藥劑師免状へ菊御紋章引用ノ儀差支ニ旨回答

明治廿五年三月六日

一 御詠ノ出版物ニ菊御紋章ヲ表示スルモノニ對シテハ御

詠ナルコトヲ明記スル場合ニ限り不問ニ附スルモ差支ニ旨

儀回答

大正六年十二月一日

一 明治神宮御鎮坐祭奉祝ニ關シ東京府ニ於テ奉祝ニ

二 揚標ノ入キ幕へ菊御紋章附番ノ件見合セラレタキ件

大正七年十月十五日

地方自治ノ整美作新ヲ企圖スルタメ事績ノ著シル市町

村及其富商者並ニ自治ノタメ盡力シタル篤志者等へ

下附セラルヘキ獎勵ノ辭令用紙へ菊御紋章附番差支

ニ旨回答

明治四十四年三月一日

一 折言ノ御柱ニ表出ノ菊御紋章差支ニ旨回答

大正十二年七月八日

一 長野市元善町大本願ニテ頒與ノ御菓子御紋章ニ

紛ハレキヲ以テ不承認儀回答

大正十四年二月二十二日

一 御眞影奉安殿ニ菊御紋章描出ノ方ニ付學校ヨリ正當

手續ニヨリ願出タル際ハ許可差支ナキ旨ヨリ
大正十三年八月十一日

第二節 海軍者關係

軍艦ノ件ニ付テハ特ニ項ヲ設ケ又便宜上
本節ニ掲ケ

一 鎮守府陸上ハ菊御紋附者ノ件許可
明治三十年六月八日英 佐世保鎮守府ハ附者ノ件

一 軍艦前後部ハ菊御紋章ヲ表出 差支ナキ件
明治三十五年三月四日宮内大臣ヨリ海軍大臣ハ回答
◎現在ニ於テハ軍艦ニ限リ艦首ニ表出

一 觀艦式参列ノ独逸軍艦ハニサ電氣ニテ菊御紋章
顯ハス件 差支ナキ旨 神奈川県知事ハ回答

明治三十六年

一 海軍戰技褒賞令ニヨリ軍艦 驅逐隊 艇隊等ニ授与セ
ラル、褒狀ハ菊御紋章附者ノ儀許可

明治四十四年十月二十三日

第三節 外務者關係

一、各國派出ノ公使領事官等ノ證トシテ菊桐御紋章
雛形回附儀照會

明治六年二月二十八日

一、菊御紋章ヲ帝國徽章ニ撰定ノ件不同意ノ件

獨逸國ハンブル議事堂内名譽館へ裝置スル我帝國徽章

トシテ菊御紋章ヲ仮定スル件

明治廿五年九月宮内次官ヨリ外務次官へ回答

一、公使館領事館門頭へ菊御紋附看差支ナキヒ回答

明治二十九年七月九日

現在ニテハ大公使領事館へ附看差支居レリ

一、在外各大使ニ御下附ノ御信任狀ニ貼用スヘキ菊花御
紋章封緘紙ハ從來當田者ヨリ交附セシヲ自今外務者

ニテ調製使用差支ナキ件
大正元年十月二十九日

第四節 大藏者關係

一 紙幣寮製造場へ菊御紋彫付ニ関シ往復ノ件

明治九年一月十二日宮内卿ヨリ大藏卿へ回答ノ文面ニヨリハ既ニ
元老院陸軍兵營等へ彫付有之候へトモ當有へ伺出許可ト上
彫付之義ニ無之候右ハ兼テ於政府御決定相成候事ト被
存候間其向へ御問合相成度云々
(備考) 現在ニハ本建物ナシ 現今造幣局ニ附着シ居ル

一 稅務監督局廳舎正面ノ管ニ菊御紋章附着ノ件
口答ヨリ以テ許可

明治四十一年十二月

一 大阪稅務監督局廳舎ニ菊御紋章附着ノ件ニ付農商
務大臣ヨリ通牒

明治四十三年一月十二日

一、米國シヤトル市ニ開催ノアラスカ、ユークン太平洋博覽會ニ
本邦民間當業者出品團體ニ於テ建設スヘキ出品館
ヘ菊御紋章使用方農商務次官ヨリ願出處間届
不相成旨回答

明治四十二年一月二十日

第五節 文部省關係

一、文部省直轄各高等中學校ニ於テ豫テ拜戴セル
御寫眞ヲ女置スル場合ニ菊御紋幕ヲ張ルコトハ御許
容不相成旨口頭ヲ以テ回答

明治三十四年五月二十六日

一、御寫眞ヲ奉置スル函蓋ニ菊御紋章附看儀不差
許旨回答

明治三十二年二月

一、小學校御寫眞奉置所前面石材ニ菊御紋章附看方
不許可旨警保局長ヨリ北海道廳長官ヘ回答

明治三十三年六月二日

一、菊花及桐葉御紋章圖畫字ヲ印刷シ各小學校ヘ配
布致度件不許可旨長野縣ヘ回答

明治三十三年六月十八日

一、小學校教育成績狀ニ菊御紋附看差支ナキ旨回答

明治三十八年十二月四日

一、御眞影奉安庫ニ御紋章附看儀詮議難相成旨

東京府知事へ回答

明治三十九年七月三日

一、文部省直轄學校モ公立學校同様御眞影裝置ニ

菊花御紋章ヲ附スル儀許可不相成旨文部省へ回答

明治四十二年九月三日

一、三十二年以上勤績ノ小學校教員ニ交付ノ賞狀ニ菊御

紋章ヲ附スルノ件許可

大正四年十月九日

一、宮成系吉御眞影奉安庫ニ菊花御紋章抽出件ニ付官房庶

臺用幔ニ菊御紋章刺繡ノ件不許可ノ件

大正五年一月十三日

一、御眞影奉安殿ニ菊花御紋章抽出件ニ付官房庶

務課長ヨリ内務省警保局長ニテラタル回答文左ノ如シ

大正十三年一月十九日敬答第百五十九号御照會ニ係ル

御眞影奉安殿ニ菊花御紋章抽出件了承本

件、如ク商人等ヨリ願出ニ對シテハ許可セシ方可能然

學子校ヨリ正當ノ手續ニ依リ願出タルハ即ハ許可セラレ

候テモ差支無之ト被存候

大正十三年七月十一日 官房庶務課第ニ一五号

第六節 農林者、商工者關係

一府縣聯合共進會出品者ニ授与スヘキ賞牌ノ裏面ニ菊御紋章附着ノ儀至差支無之ニ曰回答

明治三十九年九月二十八日

一馬匹共進會へ出陳シタル優等馬匹ニ授与セラルヘキ褒賞授与證及褒狀ニ菊御紋章附着ノ儀至差支ナキ旨内閣總理大臣へ回答

明治四十年二月九日

一賞牌受領者ニ於テ看板等ニ賞牌ヲ描出スル場合菊御紋章ヲ描出シテ差支無之儀農商務大臣へ回答

明治四十一年六月二十九日

一四民商務省所管官衙及全國商業會議所へ配布セラルヘキ詔書印刷ニ菊御紋章附着差支ナキ儀農商務大臣

へ回答

明治四十二年十月二十一日

一、外國政府へ照會等ニ使用スル書狀用紙菊御紋章打出
義 主在支ナキ旨回答

明治三十四年四月二日

一、日英博覽會事務所ニ於テ外國官廳ト往復ノ公文
用紙ニ菊御紋章使用ノ件差支ナキ旨回答

明治四十三年五月二十八日

一、産馬奨励規程ニヨリ産馬功勞者ニ授與セラルヘキ褒
狀ニ菊御紋章附看差支ナキ旨回答

明治四十三年九月二十六日

一、羅馬及「ニコラ」ニ於テ伊太利建國五十年記念万国
博覽會日本特別館玄関正面ニ菊花御紋章附看

ノ件差支ナキ旨回答

明治四十四年二月十七日

第七節 陸軍省関係
一、樺太境界標石ニ菊御紋章附着件 陸軍大臣ヨ
リ正式通牒

明治三十九年七月七日

第八節 遞信者關係

一 東官 韓國 御渡船、付同國郵便局、於之記念印章
二 菊御紋章ヲ附看スルモ差支ナキ旨 長谷川 統監代理、

回答

明治四十年九月二十七日

一 船官廳ヨリ發スル政文證書(船舶國籍證書、英譯書、
船舶検査証書、并蘇土運河噸數證書等)ニ押捺スル
官印ニ菊御紋使用モ差支ナキ旨 回答

大正四年十月二十三日

第九節 招殖局關係

一、朝鮮總督府所屬官廳中（總督府、道、府、裁判所、警
察官署、稅關、通商衙門、官廳舍、正面、菊花御
紋章掲表、儀內地同標異存無之旨朝鮮總督へ
回答

明治四十四年七月十五日

一、朝鮮總督府調製、船舶國籍證書及甲種海技
免狀、菊花御紋章附看、件許可

大正三年一月二十八日

第十節 其他

一、米國博覽會出品ニ付旗章往復

明治九年三月二十二日

米國へ出品ニ付當者ノ旗章差廻サレ度ト照會
ニ對シ宮内大小並ヨリ米國博覽會事務局ニテ
右旗章與之旨回答

一、菊御紋章ニ代ルヘキ徽章ノ制ヲ定ムルノ件

明治四十五年三月十九日決裁 訓令第四号

菊御紋章ハ直接御料ニ供スルモノ又ハ詔書勅書
勅記官記等ノ重要ナル公文書宮殿内ニ備付若クハ
宮殿内ニ於テ使用スルモノ儀式祭典ニ使用スルモノ及外
國交際上ニ使用スルモノ等ニシテ必要止ムコトヲ得サ

ル場合ニ限リ之ヲ付着シ其他ノ物件ニシテ一定ノ記章
ヲ附スルコトヲ要スルモノニ付テハ自今在ノ徽章ヲ用スル

徽章



第四章 社寺

一 神社ノ部

一 社寺濫ニ菊章ヲ用フルヲ禁ス

明治三年八月太政官布告第八〇三号

菊章御紋章一般参照

一 親王以下ヨリ社寺へ寄附セシ物品ノ菊章ヲ改メシム

親王宮門跡、黒御所、奉養寺社寺、向へ寄附相成リ来リシ
菊御紋、朝廷御寄附ニ紛レシ甚々不都合、次第ニ付相改ム
ハヤコト

明治三年十月十日

一 親王家菊章品ヲ社寺ニ寄附スルヲ禁ス

親王家ニテ用未候菊御紋葉替又ハ裏表等品ヲ替へ御紋
ニ不紛様可致旨先般御沙汰ノ通ニ候條右紋付ノ品々社寺
ハ致寄附候儀堅禁止被 仰出候事

明治三年三月十八日

一官幣中社白峰宮鎌倉宮井伊谷宮菊御紋ヲ用フル

コトニ許ス

明治六年九月教部省通達

一官幣社々殿、裝飾及社頭、幕提灯ニ限リ菊御紋ヲ

用フルヲ許ス

明治七年四月太政官達 開拓使以下三府十五縣各通

一國幣社々殿裝飾及社頭、幕提灯ニ菊御紋ヲ用ル

ヲ許ス

明治十二年四月太政官達第二〇号 國幣社所在使府縣

一明治二年八月菊御紋禁止ノ布告前神殿佛堂ニ壯

飾セシ菊御紋ニ限リ存置ヲ許ス

明治十二年五月太政官達第二三号

一向神社へ久通宮御紋寄附件

第二章 皇族紋章第三節 參照

一千葉縣伺、北御門神社へ御寄附、品ヲ收藏スル器具、

上覆ハ菊御紋ヲ付シ苦シカラサル儀回答

明治十五年二月二日

一東京府村上寅五郎ヨリ引聖違拜所ヲ設ケ大祭日菊

桐御紋章旗掲度旨府知事ヲ經由シテ願出、處

菊御紋ニ付ハ許可セム 桐御紋ハ禁令外ナル旨回答

明治十八年四月四日

一國幣小社大神山神社本殿裝飾爲減金製衣菊御紋

其他金物トモ該氏子信者ヨリ寄附致度旨伺出、處

一社ニ於テ製衣造セシムルニ於テハ異存ナキ旨回答

明治二十年四月十三日

一大阪府吉野山村村社吉水神社へ後醍醐天皇御由緒

院ナリヲ以テ今回五百五十年祭執行ニ付向後幕提灯
ハ菊御紋章相用度旨大阪府知事ヲ通シテ伺出処
詮議相成カレヨ回答

明治三十年三月五日

一従前内務省掌理社寺使用御紋章ハ宮内省ニ當
然主管スヘキ件往復

社寺ニ於テ菊御紋章相用候儀ニ付伺件今後當有ハ御
送附方御照會之趣致承知候
追テ本文菊御紋章儀ハ去ル十七年十月十五日付岡度申第元
九号御有御通牒次第ニ有之ル未當有ニ於テ主管候儀ハ
相心得居候爲念此段申添候也
右明治二十三年五月十三日宮内次官ヨリ内務總務局長宛回答

一長崎縣官祭招魂社々頭幕提灯ハ菊御紋章附看

允許件

明治二十二年三月二十二日

一福島縣般石前郡郷社大國魂神社神輿ハ菊御
紋章附看件禁制ノ回答

明治二十七年四月十四日

一臨時招魂祭執行ノ節神酒拜戴ノ盃ニ菊御紋章附
着不相成旨ヨ回答

明治二十八年九月二十六日

一岐阜縣招魂社本殿拜殿ニ使用スル幕及提灯ニ菊
御紋章附看義許可

明治二十九年二月二十九日

一愛媛縣下各縣社ハ菊御紋附看難聞届件回答

明治二十九年四月二十日

一、維新後菊章許否沿革

一、許可ナラザル社

生國魂神社の氷川神社。稻荷神社

(二) 井伊谷、白峰宮、鎌倉宮ハ菊御紋徑前通相用不苦事

(三) 金比羅宮官祭ニ菊桐ノ幕掲ケル義難間届事

(四) 廣島縣々社多家神社使用菊御紋禁止

(五) 海神社幕御紋使用禁止

(六) 塩竈神社徑末使用ノ菊御紋禁止

(七) 玉祖神社徽章トシテ菊御紋使用禁止

(八) 福島縣信夫山招魂社銅燈ニ基ノ屋根ハ菊花御紋章彫鑄儀

不許可

(九) 松尾神社、稻荷神社ノ神輿ニ附着ノ金具御紋章ハ在末ノ品相

用候儀ハ不苦旨回答

一、官幣大社気比神宮大鳥居ニ掲ケル有栖川宮殿下

御揮毫ニ係ル額縁ニ菊御紋使用ノ儀不許可

明治三十四年九月十日

一、官幣大社朝鮮神宮社頭裝飾以外ノモノニ菊御紋章

ノ中央ニ花菱ヲ繪キタルモノ使用ノ件不許可

大正十四年九月十日

(二) 寺院

一、奥言宗法務出張所伺、御修法中灌頂院道場ニ限リ菊御紋附幕提灯ヲ用ヒ苦シカラハル事
明治十六年一月四日

一、和歌山縣下粉河寺從來下賜御紋付飾、帳大破ニ付新調、上従前通り使用致度旨伺出、処間届難キ旨回至
明治十八年二月十八日

一、日光山輪王寺へ在来菊御紋章附肴什具ニ限リ使用許可
明治三十五年七月三十日

(附) 東叡山輪王寺モ同様ナリ
明治三十五年七月八日

一、日光輪王寺表門梁木へ旧来附肴、菊御紋復旧

使用方差支十ヶ旨回答

明治三十年六月二十四日

一左記京都府下御由緒寺院へ在来、今ニ限リ菊御紋章附看什器使用許可

明治三十年一月二十二日

- | | | |
|-----|-------|------|
| 仁和寺 | 妙法院 | 大覺寺 |
| 青蓮院 | 聖護院 | 觀修寺 |
| 三千院 | 曼珠院 | 毘沙門堂 |
| 三寶院 | 隨心院 | 寶相院 |
| 瑞龍寺 | 靈鑑寺 | 大聖寺 |
| 曇華院 | 寶鏡寺 | 光照院 |
| 林丘寺 | 三時知恩寺 | 總持院 |
| 寶慈院 | 本光院 | |

一京都府宇治郡萬福寺へ從來所藏、什具ニ限リ使用方許可

明治二十七年十月四日

一曰光山輪王寺歴世法親王御靈殿再興ニ付旧御靈殿裝飾剝落之菊御紋章金物使用願之趣右ハ旧物其終相用候ニ付特別ヲ以テ聽置

明治二十九年八月八日

一菊御紋章禁令後寺院ヨリ由緒上申書

- (一) 津藩大寶院……不詮議
- (二) 備前邊勝寺、妙林寺、妙勝寺法服裏菊御紋ニ改ムキ
- (三) 大坂府四天王寺 菊御紋下乘札可改事
- (四) 金剛峯寺 奥院祖堂壇上金剛峯寺徑前用來候ニ限リ菊御紋相用不苦

- (五) 神奈川縣西念寺註：岩谷寺御紋用不相成
- (六) 廣島藩功徳寺御紋使用不相成
- (七) 尾崎藩生瀬村淨橋寺菊御紋使用不相成

一、特別保護建造物ニ係ル屋根瓦、菊御紋章修理許可ノ件

(前略) 明治十二年五月太政官達第ニ十三号ニヨレハ
 明治二年布告以前ヨリ粧飾シタル分ニ限り其存存シ置ク
 ハ差支ナキモ補足修理ハ一切不相成様存セラシ候果シ
 テ然ラハ破損スルニ隨ヒ自然廢滅スルニ至ルヘクト存候処
 右ハ太政官布告ノ主ト目ニテ相憐ルヘクト存候ノコトナラズ特別
 保護建造物ノ如キハカメテ旧体ニ保存スルヲ主トシ修理致候
 次第ニモ有之特ニ短立補充致度ニ云々

一、京都府下清淨華院御影堂ニ會同ノ御紋章金物其儘使用許可ノ件

明治四十二年六月十七日

一、京都府下ト奥宗大谷派本願寺勅使門註：本堂門
 修補ニ付菊御紋章附看、旧門扉使用ノ儀許可

明治四十二年十二月二十二日

一、京都府下ト奥宗佛光寺ニ於テ後醍醐天皇御法要
 嚴修ノ際御紋章使用願出、処難聞届旨回答

明治四十三年九月十日

一、京都府下ト女樂壽院ヨリ菊花御紋章使用不許可

大正三年一月二十八日

第五章

賞狀賞牌附賞不五

一、製茶競進會賞不五、菊御紋章相用度儀農商務省伺、付内閣書記官ヨリ不相成旨回答

明治十六年六月十五日

一、府縣限リ開設スル博覽會共進會等ノ狀、菊御紋章ヲ附スルヲ許サズ

○和歌山縣伺共進會褒狀ハ御紋章附着不許可

明治十六年六月二十七日

○三重縣伺共進會褒賞及褒狀ハ同上不許可

明治十六年七月二十四日

○埼玉縣伺私立共進會賞品及賞狀ハ同上

明治十六年八月十九日

○石川縣伺郡區聯合米商共進會褒狀ハ同上

明治十七年六月四日

○高知縣伺 同上

明治十七年十二月三日

○山形手縣勸業博覽會出品優良賞牌へ同上

明治十七年三月二十六日

○千葉縣伺 農工商事業賞牌へ同上

明治十九年二月二十七日

○高知縣伺、和歌山縣伺、桐章件へ禁令限る事

一、繭生糸、真綿、共進會出品優等者へ授与スル賞杯へ

菊章不着儀不許可

明治十六年七月三十一日

一、府縣限賞品賞狀註ニ各種印紙免許鑑札其他証

狀へ菊御紋章附看、節ハ其時々頒行スヘキ事由註ニ

雛形ヲ以テ當面へ伺出ヘキコト

明治十六年六月十四日

一、第三回内國勸業博覽會賞牌及褒狀ニ菊御紋

彫刻件許可

明治三十三年三月四日

一、第四回内國勸業博覽會賞狀へ同上許可

明治三十八年一月三十日

一、第五回内國勸業博覽會功勞者ニ送付スヘキ謝

狀へ菊御紋章附看、件不許可

明治三十六年八月六日

一、臨時博覽會事務局ニ於テ外國官廳ト往復スル公

文用紙へ菊御紋章使用差支ナキ旨回答

明治三十六年九月三日

一、府縣聯合共進會出品者ニ授與スル賞牌裏面ニ菊

御紋章附看差支ナキ旨回答

明治三十九年九月二十八日

一馬匹共進會へ出陳シタル優等馬匹ニ授與セラル
ヘキ褒賞披与證註ニ褒狀ハ菊御紋章附看差支十
キ七日内閣總理大臣へ回答

明治四十年二月九日

一白皇太子殿下御下賜金ヲ以テ菊御紋章附看ノ記念盃
調製衣不許可ノ件元山理事廳へ回答

明治四十年十一月十五日

第六章 免狀及切手印紙類

一醫術開業免狀ハ菊御紋章附看儀許可

明治十六年十一月二十九日

内務省

一免許諸鑑札免狀等ハ各官省府縣發行分トテ御
紋章鑲入義印刷局ヨリ照會ニ付其都度経伺
上テ下テハ伺分御答難致旨回答

明治十六年六月二十日

一賞品賞狀註各種印紙免許鑑札其他證狀ハ御
紋章附看節伺出ヘキ旨府縣へ内達

一自家用料酒類免許鑑札ハ菊章ヲ附スル義石川縣
伺付伺通差支十キ旨回答

明治十六年七月二十二日

(但し現在在用なし)

一 獸醫免狀御紋章ヲ附シ差支ナキヤ農商務御問合

兼シ差支ナキ旨回答

明治十八年十二月八日

一 海軍兵隊子校生徒卒業狀ハ菊御紋漉込ノ儀許可

明治十九年九月一日

海軍省ハ

一 商船學校卒業證書ニ菊御紋印記許可

明治十九年五月二十四日

逓信省ハ

一 學位記ニ菊御紋章印記許可

明治二十二年三月二十日

文部省ハ

一 商標證書ニ菊御紋章印記許可

明治二十二年十二月廿七日

農商務省ハ

一 藥劑師免狀ニ菊花印用差支ナキ旨回答

明治二十三年三月六日

内務省ハ

一 生糸検査所檢定證書ニ菊御紋付着差支ナキ旨回答

明治二十九年二月二十一日

農商務省ハ

第七章 賣品附商標看板引札類

一、菊御紋章及紛敷品物ヲ賣品ニ画ク者取締方

宮内省達乙第二号

明治十三年四月五日

府縣

菊御紋章ヲ賣物等ニ畫キ候儀並ニ紛敷品相
用候儀ニ不相成旨明治元年三月二十八日明治四
年六月十七日太政官布告ノ趣ニ有之候處近
來往々賣品ニ御紋章ヲ画キ候向有之哉ニ付取
締方一層注意可致候此段相達候事

一、司法省同菊御紋附物品賣買者處分ノ件

林手合前ノ製作ニ係リ現在其用ニ供スルニ非ルモノハ不問ニ

措ク儀ト心得ヘシ

明治十三年四月十五日

一、商標圖中單辨菊花章描畫ハ御紋章ニ紛敷ニ付
使用スヘカウナルヒ目農商務省ニ回答

明治十九年十一月十九日

一、京都府平民少口藤七ハ御紋章類似ノ模様織出
相成ラサル儀回答

明治二十二年十二月二十日

一、舶来品トランプ表封ニ菊御紋章ヲ印記シタルモノ販賣
ニ関スル件不相成儀警視總監ヘ回答

明治二十三年一月十七日

一、菊御紋章印記商品處分法ニツキ警視總監ヘ寛教
宜敷ヲ得タキヒ目回答

追テ御陵圖御系譜等ノ出版物ニ菊章ヲ掲ケ又ハ

菊章アル物品家屋等ヲ寫真シ模寫シテ印行スル
類ハ禁止ノ限ニ非ル儀ト御承知有之度云々

明治二十三年十一月十九日

一、玩具勳章ノ類ニ附看菊御紋章取締ニ関シ警保
局長ヘ回答

明治二十六年六月二十日

一、天皇旗ヲ提灯又ハ繪画若クハ物品ニ記載ノ件ニ付テハ
何等ノ制規モ無之不得止次第ノヒ目警保局長ヘ回答

明治二十八年六月五日

一、菊御紋章アル賣牌ヲ即略シ單ニ御紋章ノ部分ヲ
店頭ノ看板、廣告等ニ相付ス儀ハ御差止相成可然
ヒ目警保局長ヘ回答

明治二十九年三月七日

一、國末良吉廣告金庫ニ菊御紋附看ニ付取締方警
視總監ハ依頼
明治二十九年九月九日

一、賞牌受領者ニ於テ看板等ニ賞牌ヲ描出スル場合
菊御紋章ヲ描出スルニ付農商務大臣ハ回答
明治四十一年六月二十九日

一、露都ニ於テ開設ノ萬國裝飾用美術品及家具博覽
會本部陳列場ニ菊御紋章附看ノ件許可
明治四十二年七月一日

一、英國ニ於ケル日英博覽會協會ヨリ京都府貿易店ニ向
ケ招待狀ノ注文有之候処右ハ表紙其他ハ英國御紋章
並列描出スルニ付注文相断様警保局長ハ回答
明治四十三年二月廿八日

第八章 圖畫書籍附 献品

一、御手元ハ献上致候節右献本表紙等ハ菊御紋
壯裝飾候儀ハ差支無之旨史官ハ回答
明治九年三月十七日

一、東京府寄留斯波清之ハ鑄物燈籠献納且御由
緒ヲ以テ裏菊御徽章御許可相成度旨願出ニ對
シ献燈儀ハ其儀ニ及ハス裏菊御徽章相用候
儀ハ不被差許旨本人ハ回答
明治十三年八月四日

一、皇統或ハ御歴代ノ尊号ヲ掲候圖書中ハ菊御紋
ヲ記スルハ辛未六月御禁止ノ布告ニ不準旨太政官
ヨリ指令

明治十七年七月十日

一、東京府照會皇族明鑒ト題スル書籍ハ菊御紋章

附著ノ儀許可

明治十七年九月二十六日

一、單ニ勅語タルノ故ヲ以テ菊御紋章ヲ印記候儀ハ林示
令違反ト存候ニ付右等ノ類自今御取締相成度

七日敬言保局長ヘ回答

明治二十九年七月十七日

一、明治三十三年八月十八日内務省訓令板草

私著ノ文書圖画ニ在テハ御陵圖、御系譜、御聖代、
等号ヲ掲ケル場合ト雖モ菊御紋章若クハ菊御紋章
類似ノ圖形ヲ之ニ表出スルコトヲ得ズ

一、以中詔書奉釋ト題スル出版物表紙ニ菊御紋章

類似ノ圖形表示不問ニ附シ置カノ件

明治四十二年二月六日

第三 現行許可範圍

三七

314

第三 現行菊御紋章許可範圍

- 一、伊勢八幡上下賀茂及泉涌寺般舟院 (明治元年)
- 二、官幣社々殿裝飾及社頭、提灯 (明治七年)
- 三、國幣社々殿裝飾及社頭、提灯 (明治十二年)
- 四、明治二年八月禁止布告前 神殿佛堂ニ粧飾シタル
分ニ限り其儘存置スルヲ許ス (明治十二年)
- 五、招魂社ノ幕布ニ提灯 (明治十二年 福島縣内)
- 六、各官衙 (官省、府縣廳、兵營、裁判所)ノ破風但郡役所不可
- 七、京都府下仁和寺以下二十三ヶ寺ノ御田結寺院ニ在来ノ分ニ
限り許可 (明治十三年)
- 八、日光山、東叡山兩輪王寺ニ同上 (明治三十五年)
- 九、京都府下萬福寺ニ同上 (明治三十七年)

- 一、金剛峯寺奥院祖堂註壇上金剛峯寺ニ限リ同上(乙十一月)
- 二、官幣中社白峰宮、鎌倉宮、井伊谷宮 徑前通被差許(明治六年)
- 三、内國勸業博覽會賞牌及褒狀ニ菊御紋彫刻ノ件許ル(明治廿三年)
- 三、軍艦 (明治廿五年)
- 一四、官立學校ノ免狀 (明治十六年)
- 一五、政府ノ命ヲ以テ開設スル博覽會共進會等ノ賞狀 (明治十六年治定)
- 一六、諸官有ニ於テ管掌スル博覽會共進會等ノ賞狀 (明治十六年)
- 一七、政府ノ命令ヲ以テ全國一般発行スル各種印紙免許鑿孔其他證狀切手ノ類 例ハハ (明治十六年治定)

(一) 貨幣

(二) 紙幣

(三) 公債證書

(四) 諸印紙

- 一八、褒狀賞狀ノ模寫 (明治四十二年)
- 一九、商標條例ニヨリテ下附ス(キ證書由 (明治三十年)
- 二〇、日本藥局方羅甸文書籍ノ表紙
- 二一、水先規則表紙 (明治十六年)
- 二二、第三回内國博覽會英文出品目錄表紙 (明治三十三年)
- 二三、献上書籍ノ表紙 (明治九年)
- 二四、裁判所ノ正本用紙
- 二五、橫濱競馬場御馬見所屋上ノ手摺
- 二六、樺太境界標石 (明治十九年)
- 二七、學習院校舍正堂後壁 (明治四十五年)
- 二八、京都府下清淨華院御影堂 在末ノノ燒殘 (明治四十二年)
- 二九、京都府下眞宗大谷派本願寺勅使門柱、本堂門 (明治四十二年)
- 三〇、稅務監督局廳舎正面ノ電 (明治四十二年)

三一、日光輪王寺表門の木 在来、分 (明治三十年)

三二、朝鮮總督府所屬官廳 (總督府、道、府、裁判所、警務官署、税

関等廳舎正門) (明治四十四年)

三三、私著、文書、圖画ニシテ御陵園御系譜御代々傳々ヲ掲クル場合又ハ

御肖像御詠 (御詠ナルコトヲ明記スルニ限ル) ヲ掲クルニ方リ之ト相俟テ

御紋章ヲ表出スル場合 (明治三十三年)

三四、皇統、御歴代、尊号ヲ掲出圖書中ハ附着不苦 (明治十七年)

三五、海軍戰技復賞令ニヨリ軍艦駆逐隊艇隊等、授与、褒狀 (明治

三六、各省ヨリ外國政府ハ照會書ニ使用スル書狀用紙 (明治四十三年)

三七、内國勸業博覽會場正門 (明治三十五年、第五回場合許可)

三八、在外各大使ニ御下附、御信任狀ニ貼付ス (キ封緘紙) (大正元年)

三九、折書、御柱 (大正十三年)

四〇、醫術開業免狀、藥劑師免狀 (明治十六年)

四一、日本藥局方外國通用、タメ表紙中央ハ菊御紋章附着被差許 (明治十九年)

四二、大公使領事館門頭 (明治十九年)

四三、管官海廳ヨリ発スル改文證書 (船舶国籍證書、英譯書、船舶検査

證書、サ蘇土運河噸教證書等)ニ押捺スル官印ニ使用

四四、朝鮮總督府ニ於テ調製、船舶国籍證書及甲種海技免狀 (大正三年)

四五、特別保護建造物修理ニ際シ古瓦、様式ニ則リ御紋附瓦ヲ焼キ、上

補充差支ナレ (大正五年)

四六、皇子位記 (明治二十二年)

四七、生絲検査所檢定證書 (明治三十九年)

四八、御眞影奉安殿ニ御紋章ヲ付スル儀ニ付、学校ヨリ正當ノ手續ニヨリ抽

合ニ限リ許可 (大正十三年)

第四參考資料

010

318

第四 參考資料目次

第一節

内務省往復公文

第二節

菊御紋章ニ関スル達類案

第三節

官報所載菊御紋章取締

第四節

御肖像取締ニ関スル件

附録

菊御紋章使用官公署廳舎一覽表

大正十三年十二月内務省調査ニル

四



第一節 内務省往復公文

第二節 菊御紋章ニ関スル違類聚ニ集メタルヲ以テ其ノ本文ヲ省略シ茲ニハ右御紋章禁止ノ令ニ應セサルモノアル場合ノ行政執行法第五條第三項ヲ參考マデニ採録セリ

法律第八十四號
行政執行法

第五條 當該行政官廳ハ法令又ハ法令ニ基キテ爲ス處分ニ依リ命シタル行爲又ハ不行爲ヲ強制スル爲左ノ處分ヲナスコトヲ得

一 自ら義務者ノ爲スヘキ行爲ヲナレ又ハ第三者ヲレテ

之ヲナサレシ其ノ費用ヲ義務者ヨリ徴集スルコト

ニ強制スヘキ行爲ニシテ他人ノナス事能ハサルモノナ
ルトキ又ハ不行爲ヲ強制スヘキ時ハ命令ノ規程ニヨ
リ二十五円以下ノ過料ニ處スルコト

前項ノ處分ハ豫メ戒告スルニ非レハ之ヲナスコトヲ得ス但シ
急迫ノ事情アル場合ニ於テ第一号ノ處分ヲナスハ此ノ限ニテ
行政官廳ハ第一項ノ處分ニヨリ行爲又ハ不行爲ヲ強制
スルコト能ハスト認ムルトキ又ハ急迫ノ事情アル場合ニ非
レハ直接強制ヲナスコトヲ得ス

第二節 菊御紋章ニ關スル違類聚

第一、明治元年三月太政官布告

第二、明治四年六月 同

第三、明治十三年四月宮内省乙第二号

第四、明治三十三年八月内務省訓令第八三三号

第五、明治三十七年八月内務省訓令第五〇七号

第六、大正六年十二月内務省訓令第七五九号

第一 明治元年三月二十八日布告

一 禁裡御用或ハ禁裡御料又ハ禁裡御内杯ト
會符榜示杭標札等ニ書記シ候儀云々

一 提灯又ハ陶器其外賣物等ニ御紋ヲ画キ候事共
如何儀ニ候以來右ノ類御紋ヲ私ニ附候事急度可
禁止旨被仰出候事

但ニ御用ニ付是迄被免之分モ一應伺出可申事

右ノ通被仰出候條未ダ迄不洩様可申達事

第二 明治四年六月十七日 布告

菊御紋禁止儀ハ兼テ御布告有之候處猶又向
後由緒有無ニ不開皇族外總テ被禁止候
尤御紋ニ紛敷呂相用候儀モ同様不相成候條
相改可申事

但シ從來諸社ノ社頭ニ於テ持來候分ハ地方官ニ
於テ取調可申出事

第三、明治十三年四月五日 官省乙第ニ号

菊御紋章ヲ賣物等ニ画キ候儀玆ニ紛敷品
相用候儀モ不相成旨明治元年三月二十八日明治四
年六月十七日太政官布告ノ趣モ有之候處近來
往々賣品ニ御紋章ヲ画キ候向モ有之哉ニ付取
締方一層注意可致候此段相達候事

四
五

第四、明治三十三年八月内務省訓令 八三三号

内務省訓令第八三三号

菊御紋章禁令儀ニ付テハ明治元年三月同四年六月
太政官布告ヲ公布セラレ尙取締方ニ付テハ明治十三年
四月宮内省し第二号達趣モ有之候處爾來事業
ノ勃興ニ伴ヒ各種商品廣告看板又ハ私著ノ文書
図画等ニ之ヲ私用シ近時ニテ濫用ノ弊漸ク滋ク取
締上黙過スヘカラサル義ニ候條此際管下一般ニ禁制ノ
趣ヒ目ヲ諭告シ大要左記標準ニヨリ取扱ヲナシ禁止ノ
令ニ應セサルモノニ對シテハ懇篤説諭ヲ加ヘ其ノ後ハサル
者アルニ於テハ行政執行法第五條第一項ニヨリ處分ノ
強制ヲ期セラルヘシ

右訓令ス

明治三十三年八月十八日

内務大臣

一、印刷描出其他方法、如何ニ拘ラス高品、商品、容器、封皮、引札、廣告、看板、建築物、門扉、門頭、又ハ其他、物件ニ菊御紋章若クハ菊御紋章類似、圖形ヲ表出シ之ヲ發賣、頒布シ又ハ之ヲ觀覽、用ニ供スルコトヲ得ス

二、帝室若クハ政府、授與ニ係ル賞牌、賞狀、褒狀、免狀、類ヲ節略模寫シテ菊御紋章、部分ヲ前項、物件ニ描出、私用スルコトヲ得ス

三、私著、文書、圖画ニ依リテハ御陵園御系譜、御聖代ノ尊號ヲ掲ケル場合ト雖モ菊御紋章若クハ菊御紋章類似、圖形ヲ之ニ表出スルコトヲ得ス

四、帝室若クハ政府、所有若クハ授與ニ係ル物件、形狀ヲ

複製、撮影、模写等ニ依リテ表出シタルモノハ前各項、限ニテアラス

第五 明治三十七年八月内務省訓令 五〇七号
 第六 大正六年十二月内務省訓令 七五九号

内務省訓令第五〇七号
 菊御紋章取締ノ件ニ付テハ明治三十三年訓第八二三号
 ヲ以テ其ノ標準ヲ指示シ及訓令置候處自今私著ノ文
 書圖画ニシテ御陵回御系譜御歴代ノ尊號ヲ掲ケル場
 合又ハ御肖像 勅語 御詠 (御詠タルコトヲ明記スルモノ限ルル
 ヲ掲ケルニ方リ)ト相俟テ菊御紋章ヲ表示シ又ハ私人
 傳來ノ菊一文字ノ類ニシテ全然菊御紋章ト別種ニ屬ス
 ルモノ、如キハ取締上寛假スルモ差支之レナカルヘク從來
 菊御紋章註ニト類似ノ図形表出ニ関シ取締勵行ノ
 趣旨ハ商品廣告其他ニ於テ之ヲ濫用スルノ弊ヲ禁遏
 スルニ由ルヲ以テ是等ニ對シテハ依然嚴密ナル取締ヲナス

ヘキハ勿論ナリト虽モ如上例示ノ類ニ對シ私人ニ於テ帝
室ニ對スル守嚴ノ誠意ヲ以テ之ヲ表示シ又ハ全然菊
御紋ノ字トハ視セラル、家紋ノ如キハ不問ニ附シ可然候
ハハ彼是酌量シ實嚴宜ニ從ヒ措置セラルヘシ

右訓令ス

明治三十七年八月九日

内務大臣

後日訓令第七九九号

右訓令中左ノ通り改正ス

御青儀勅語ノ下ニ御詠(御詠ナルコトヲ明記スモノニ限ル)シ
ヲ加

正六廿二月二十八日

内務大臣

四九

第三節 官報(雜報)所載菊御紋章取締

菊御紋章ならぬに類似紋章私用の取締

官報 第六六一号

大正十三年十月五日

内務省警備局

近來往々にして商品や廣告其他に菊御紋章又は類似の紋章を
表出所用する者がある。取締上しむを得ずう販賣配布を差
止めるべきであるが、由らば詢にこれを遺憾とする。

帝室の御紋たる菊御紋章を商品等に描出使用することの出来
ないことは、明治元年三月二十八日、内官布告によつて明かである。

提灯又ハ陶器其外賣物等へ御紋ヲ畫キ候事共如何儀ノ候
以來右ノ類御紋ヲ私ニ附ケ候事此度可禁止旨被 仰出候事
但御用ニ付是道被免ノ分モ一應伺出可申事

と達せられてゐる。又御紋章類似の紋章を私用することを禁せら
れたのは、明治四年六月十一日の太政官布告である。

菊御紋林止儀ハ公衆ヲ御布告有之候處猶又向後由緒
ノ有無ニ不問皇族ノ外總テ被禁止候、尤御紋ニ紛敷品相
用候儀モ同様に相成候條相改可申事

と一般に達せられ、更に明治十三年四月五日官内省達乙第廿二号で
府縣へ取締方を達した。

菊御紋章ヲ賣買細等ニ盡キ候儀並紛敷品相用候儀モ不
相成也日明治元年、月二十八日明治四年六月七日太政官布告
ノ趣モ有之候處迄未往々賣買品ニ御紋章並ニ候向一旨之
哉ニ付取締方一層注意可致此旨相達候事

菊御紋章又はこれに紛ひし紋章を私用する事ニ禁まこと没行
規則は、上記の如く久しい以前に発布せられたものである。爲に

世間では、これを知らない向もあらうといふ理由で其後内務省で
は地方長官に對し、右取締の標準を指示し一般に周知せしむ
る法を採らしめた。その標準は左の通りである。

- 一、印刷描出其他ノ方法、如何ニ拘ラス高品、商品、答書、封皮、引
札、廣告、看板、建築物、門扉、門頭又ハ其他ノ物件ニ菊御紋
章若クハ菊御紋章類似ノ圖形ヲ表出シ之ヲ發賣頒布シ又ハ之
ヲ觀覽ノ用ニ供スルコトヲ得ス
- 二、帝室若クハ政府、授與ニ係ル賞牌、賞狀、褒狀、免狀、類ヲ
節略模寫シテ菊御紋章ノ部分ヲ前項ノ物件ニ描出私用ス
ルコトヲ得ス
- 三、私著ノ文書、圖書ニ於テハ御陵圖、御系譜、御歴代ノ圖等ヲ
ヲ掲ケル場合ト虽モ菊御紋章若クハ菊御紋章類似ノ圖形
ヲ之ニ表出スルコトヲ得ス

四、帝室ニ在ルハ政府、所有若クハ授與ニ係ル物件ノ形状ヲ複写、
撮影、模圖等ニヨリテ表出シタルモノハ前各項ノ限ニテラス

地方長官ハ此ノ指示によつて一般ニ諭告を發シたガ、尚モ違反
者を出す場合には懇篤ニ説諭を加へ、それでも従はない場合には
己心を得ず行政執行法により描出私用すべからざることを強制し
取締ノ實をあげてゐる

その後前記標準の三について、私著の文書圖書中、御陵園御系
譜、御歴代の尊号を掲ぐる場合これと相俟て御紋章を掲ぐ
るのハ差支ないことになつた。

又御肖像勅語、御詠を掲ぐるに當リも右同様ノ取扱をなす
ことになり、更ニ又菊御紋章と全く別視せらるゝ私人傳來の紋章
例ハは菊水とか菊一文子とかいふ如きは差支ないことを明たした。

こゝに注意すべきは御陵園とか御系譜とか勅語とかに「これと相俟

て菊御紋章を掲ぐる」とあるものは、同一紙面にこれを掲ぐるといふ場
合で、表紙とか別紙に描出することは許されておないのである。

それから前掲標準の二に、賞牌、賞狀の類を節略模写して御紋
章の部分を私用することを禁じてあるのは例ハは内國勸業博覽
會において賞牌を授與せられたものが、その商品なり製作品なり
の廣告等に、その賞牌の形状模様、記載全文を掲ぐるのハ差支
ないが、四年に第何回内國勸業博覽會賞牌授與とのみ記して菊
御紋章を描出するやうな場合を禁じたものである。

賞牌については特に明治十二年四月二日内務省布達申第九号を以て
公布されてゐる。

明治十二年内國勸業博覽會ニ於テ授与ノ賞牌(本牌ニハ御紋
章アリ)ハ高麗ノ適宜ニ任セ右賞牌ノ字ヲ製造ノ物品又ハ其
外ト包シ或ハ木板廣告書等ヲ類ヘ相付テ候儀ハ不苦條件

此七日爲心得布達候事

右に準し賞状、褒状等に御紋章の描出せしるものを、廣生も着格等に表出使用する事を許してあるのは、右受領者の名譽を表彰し産業奨励の趣旨に出でたものである。但しそれ以外の全形全文を掲ぐべきもので前記の如く節略模写することは許されぬ。

山実例から見ると右の制規に違反するものは、小間物、呉服類、金銀細工、陶磁器、菓子、家具類、金物等に多いのであるが中には往々同情すべきものもあつて、取締に苦心するのである。高價の製作品等にはありては、豫め回様を縣廳とか教言参事等とかに提出して指示をうけたならば、不用意の爲に招く違反と損失とを防ぐことが出来るであらう。

尚勅御紋章を枝又は葉で抱擁したり若くはこれと纏絡し

て御紋章を描出したものも取締をいける。又花瓣の数を十四とか十八とかにしたものも類似の席で同じく取締られる。その花瓣を紋章型とせず生花の瓣に擬したものは、差支ないのである。制衣作等には特に一般に注意するやうありたいものである。

第四節 御肖像取締ニ関スル件

内務省訓令第七四一号

諭告

御肖像ハ左ノ各項ニ準據シテ苟モ心得違ノ次第
無之様石ヨク注意ヲ加フヘシ

右諭告ス

明治三十五年十一月三十日

聖上

大皇太后

皇后

御肖像販賣儀黙許ニ附セラレ候ニ付テハ販賣者ニ
於テ取扱上自然不敬ニ涉ル等ノ所爲無之様別紙
取締心得書ニ準據シ其向官業者ニ厚ク注意セラ

五四

ルヘレ
右訓令ス

一別紙

聖上

皇太后宮

皇后宮

東宮

御肖像ト認ムヘキ寫眞画、銅石版画、水画、木版錦
繪等ハ其ノ尊号ヲ標記シアルト否トヲ問ハス給ヘテ
御肖像ト見做スヘレ
御肖像ハ不敬ニ涉ルヘキ場所ニ掲ケ又ハ陳列セシムベ
カラス

御肖像ハ露店ニ於テ販賣セシムヘカラス
扇子、團扇、陶器、漆器、織物其他引札類及玩具
等ニハ御肖像ハ画カシムヘカラス

明治三十一年内務省諭告

御肖像ハ左ノ各項ニ準據シテ苟モ心得違ハ次第無
之様否ヲ注意ヲ加フヘレ

第一

天皇

皇族ノ

御肖像ハ其ノ尊号ヲ標記シアルト否トヲ問ハス御肖像
トシテノ外ハ寫出スヘカラス

第二 御肖像ハスヘテ粗造ニ流レ不敬ニ涉ルヘカラス

第三 御肖像ハ不敬ニ汚ルヘキ場所ニ掲ケ又ハ陳列スヘカラス

第四 御肖像ハ露店ニ於テ發賣頒布スヘカラス

三五

34

菊御紋章描出官公署廳舎調

大正十三年十二月内務省調査ニヨル

合計	北海道	釧路	宮崎	鹿兒島	沖繩
五	一				
二四	二				
六七	一				
五八					
七八					
四六					
一四					
八					
一七					
一二					
七					
二二					
二					
三					
五					
一					
二二					
三八九					
	五	六	二	三	

備考 本表ニハ玄關上部、屋根瓦、天井裏等ニ描出セルモノヲ掲ク
學校内御眞影奉安殿ニ關係アルモノハ除ク

334-1

